

行動隊の「実力」は？！

第56回SVCF院内集会の討議

公益社団法人福島原発行動隊
理事長 安藤博

11月24日開催の第56回SVCF院内集会は、その一ヶ月ほど前に東京・永田町星陵会館で開催された東京シンポジウム（「東京電力福島第一原発の事故から学ぶ—放射線被ばくに備えよう！—」）を振り返って、その準備・運営に当たったSVCF事務局メンバーからの報告をもとに、集会出席者と意見交換をするという趣旨で行われました。

集会の初めに、東京シンポジウムの司会とパネリストを務めた伊藤邦夫さんが自身の発言とそれに続く講演とパネリスト発言を紹介されました。それらの内容、並びに東京シンポジウム開催準備の中心的役割を果たされた杉山隆保、麻生良二ご両人の「感想」は、本誌の前号(11月17日刊)に記されていることで大要は尽くされています。

この院内集会で討議の大方を占めたのは、実は東京シンポジウムの「報告」ではなく、この集会を主催した私たち福島原発行動隊の現況についてでした。端的に言えば、「原発事故にどう対処するか」といったテーマで広く啓発的役割を果たすに足る実力があるのかどうかということです。

今すぐに事故が起きてしまったときの行動隊を思えば「事故への対処」を啓発すること自体、おこがましいと言われかねません。わが身を振り返ると、事故に対処するための体勢が、人材の数(量)と能力(質)両面で不十分と言わざるを得ないからです。そう言えば、この院内集会で「東京シンポジウムが行動隊の啓蒙・啓発事業として行われることが、団体メンバーに徹底していない」ことも問題として挙げられました。

院内集会を締めくくると、以下のような趣旨の発言がありました。

『「少なくとも40年かかる」とされる廃炉に向けての事故収束事業に加わっていくという長期の取り組みと、あの震災直後に起きた水素爆発のような事故が再発した場合に対処出来るような体勢を整えることの双方が必要だ」、事故に当たって行動する用意がない限り「行動隊」というわけにはいかないということです。

高齢者を中心に編成された行動隊が実際に行動出来るようになるための「立法工作」や、行動能力を涵養するための「人材育成」に2016年度の新規事業として取り組んでいることの意味を改めて確認しなければなりません。

原発事故への対処を啓発すると称する東京シンポジウムが、いみじくも、それを主催した行動隊に自らの問題を突きつけるというかたちではね返ってきた感があります。そうした”副産物”を得たという点で、11月24日の第56回SVCF院内集会は有意義な集まりであったと言えるでしょう。



第57回SVCF院内集会 元・原発労働者が語る“原子カムラ”の世界

12月15日(木) 11時-13時 参議院議員会館D103会議室

なかなか見えて来ない原発作業の実態。福島第一原発の事故収束作業においても、現場で活躍する作業労働者の声は発信されません。今回は、18歳から29年間という長きにわたって原発作業に従事された今野寿美雄さんにお話を伺います。



<今野寿美雄さん:プロフィール>

1964年、浪江町生まれ。1982年、放射線作業従事者となり原子力関連(東京電力株式会社福島第一原子力発電所・同第二原子力発電所・東北電力株式会社女川原子力発電所、日本原子力発電株式会社東海第一発電所・東海第二発電所、JAEA もんじゅ、他)や、火力関係(東電広野、鹿島、他)などで電気計装設備及び機器に関する建設工事、メンテナンスなどに従事してきた。2011年3月女川原子力発電所に出張中に被災し、現地で復旧支援活動に当たった後、家族や浪江の人たちと共に福島市飯坂温泉の公営住宅に避難。「子ども脱被ばく裁判(子ども人権裁判)(親子裁判)」原告。「脱被ばく実現ネット」で活動。「福島原発告訴団」「南相馬20mSv 撤回訴訟」「津島訴訟」「生業裁判」などの支援者として活動。

次回“シンポジウム”は大阪で開催します。

公益社団法人 福島原発行動隊(SVCF)が2016年度三新規事業のひとつとして取り組んでいる「原発」について啓蒙/啓発するための“シンポジウム”を、10月29日の東京集会に続き大阪で開催することを、12月9日東京・淡路町事務所で行った検討会議で申し合わせました。

東京のシンポジウムにも参加された奈良県生駒市の福永さんに上京を求め、麻生、安藤、杉山の各事務局メンバーを合わせた4人で以下につき話し合った結果です。

- 1、何のために、誰を対象に、どんなテーマで
 - 2、集会形式(討論会、講演会、シンポジウム?)
 - 3、講師、討論者
 - 4、開催日時(2月、3月? 週末、ウィークデイ?)、会場
- 討議の結果は以下の通りです。

- ・基本的には「東京シンポジウムと同じように」、しかし「より多くの参加者を得てより広く啓蒙/啓発の実をあげられるよう」、テーマ・講師等に工夫をこらす。
 - ・そのため、東京の事務局メンバーと福永さんを初めとする開催地関西のSVCFメンバーとの協議を大阪で行うこととし、1月15日(日)の午後、大阪駅近くで会議する。
 - ・“シンポジウム”開催日は、3月25日ないし26日とする。
 - ・会場は、使用料が安く足場がよい(仏教関係等)施設とする。
- 追記:1月15日(日)の大阪での会議にご参加可能の方は(実際に参加されるかどうかは未定で結構ですから)、下記の安藤宛てに、1月5日(木)の正午までにご連絡ください。参加人数に応じて会議の場所等を決め、参加予定者にお伝えします。

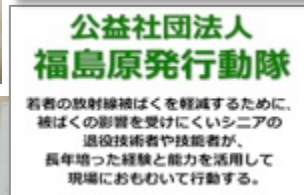
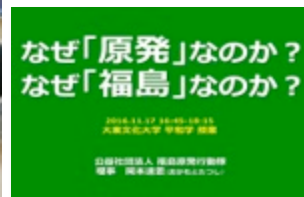
●安藤:090-2622-1963、andou_h2001@yahoo.co.jp

地域における啓発活動への協力 講演や放射線測定教室を実施

公益社団法人 福島原発行動隊では、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故収束作業への参画はもとより、被災地周辺地域における被災者の依頼に応えた放射線測定活動を続けていますが、その他の地域においても放射線測定を通じた放射線防護の啓発活動に対する協力支援を受け付けています。

地域での市民を対象とした放射線測定講座やワークショップをはじめ、大学生や高校生に向けた原発事故や事故収束活動の講演から、放射性物質の測定をテーマとしたワークショップまで、ご要望に応じて対応させていただきます。

ご希望される方は、下記の事務局までお問い合わせください。



若者の放射線被ばくを軽減するために、被ばくの影響を受けにくいシニアの退役技術者や技能者が、長年培った経験と能力を活用して現場にももまれて行動する。



事務局からのお知らせ

公益社団法人福島原発行動隊の事務局は、東京都心の交通至便な場所に位置しています。

事務局のメンバーは、毎週木曜日の11時-13時(※)にここで連絡会議を開催し、事務運営の確認や情報交換を行っています。

連絡会議は、基本的にオープンで開催していますので、メンバー以外の方も参加できます。お近くにお越しの際は、是非ともご参加ください。

なお、今年の仕事納めは12月23日(金・祝)までとさせていただきます。また、来年の仕事始めは、1月10日(火)からとさせていただきます。

【SVCF連絡会議】

2016年12月

- 15日(木)=院内集会後、その会議室で14時から実施。
- 23日(祝)=SVCF事務所にて11時から実施。

2017年1月

- 12日(木)=SVCF事務所にて11時から実施。
- 21日(土・祝) SVCF事務所にて11時から実施。
- 26日(木) SVCF事務所にて11時から実施。

※月1回は木曜日ではなく週末ないし祝祭日に開催します。急な日程変更も有り得るので、事前にSVCF事務所へご連絡ください。

【事務局】

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル 1階A室
Tel:03-3255-5910 Mail:svcf-admin@svcf.jp